



2009年3月会山行

## 南会津 檜枝岐周辺の山

担当：石井、棚橋、中村

【日時】 2009年3月15日(日) [本来は14日(土)～15日(日)]

【メンバー・ルート】 [ルートは縮小・変更後]

- A. 浅井(L)、小暮、斎藤(健)、大田原
  - ・巽沢出合付近の国道～巽沢山～家向山の稜線～窓明山(往復) 山スキー
- B. 田村(L)、田邊、佐貫
  - ・小豆温泉～黒檜沢左岸尾根～三ツ岩岳(往復) 山スキー
- C. 中村(L)、野村、田辺(利)
  - ・葎ヶ平～下大戸沢右岸尾根(1386、1553)～大戸沢岳(往復) 山スキー
- D. 佐藤(L)、鈴木、棚橋、栗原
  - ・檜枝岐・滝沢橋～駒ヶ岳(往復) 山スキー
- E. 岩田(L)、山口、藤岡、斎藤(良)
  - ・巽沢出合付近の国道～巽沢山(往復) 歩き
- F. 手嶋(L)、山川、渡辺、尾木原、池田、飯田、坂村
  - ・上ノ原駐車場～キリンテ～大津岐峠～上ノ沢左俣源頭滑降～1764m  
～キリンテ沢滑降～キリンテ～上ノ原駐車場 山スキー

今年の残雪期の会山行は、例年に比べて異例の早い時期に行なわれることになっていた。その理由はさて置き、要望されている山行形態は「残雪期の尾根、雪稜、山スキー」であり、特に山スキーなど3月中旬では少し早いのではないかという不安があった。しかし蓋を明けてみると今年は本当に雪が少なく、例年通り4月中旬の予定であったら、更に山城やルートに制限が強まったと思われるので、結果オーライだったかも知れない。

元々は谷川岳周辺や上信越国境辺りで考えており、2月一杯まで積雪量が増えることを毎日祈るような気持ちで過ごしていたが、タイムリミットになっても上記山城では躊躇られる位の積雪量しか得られなかったため、結局10年前にも会山行の舞台となった檜枝岐周辺で計画することとなった。そしてテーマを「主要ピーク間をつなげつつ、別天地に泊まる！」と掲げた、なかなか魅力的なルートが出来上がった。

しかし今度は土曜の天気、午前中まで本降りの雨予報が確定的となってしまったので係全員苦悩の末、全パーティを日曜日帰りに縮小することとなった。その結果、私が入会して以来初めての「全パーティ日帰りの会山行」という珍記録樹立となってしまった。

以上のような顛末でありますので、雪稜を希望していた方、どうしても山中で泊まりました

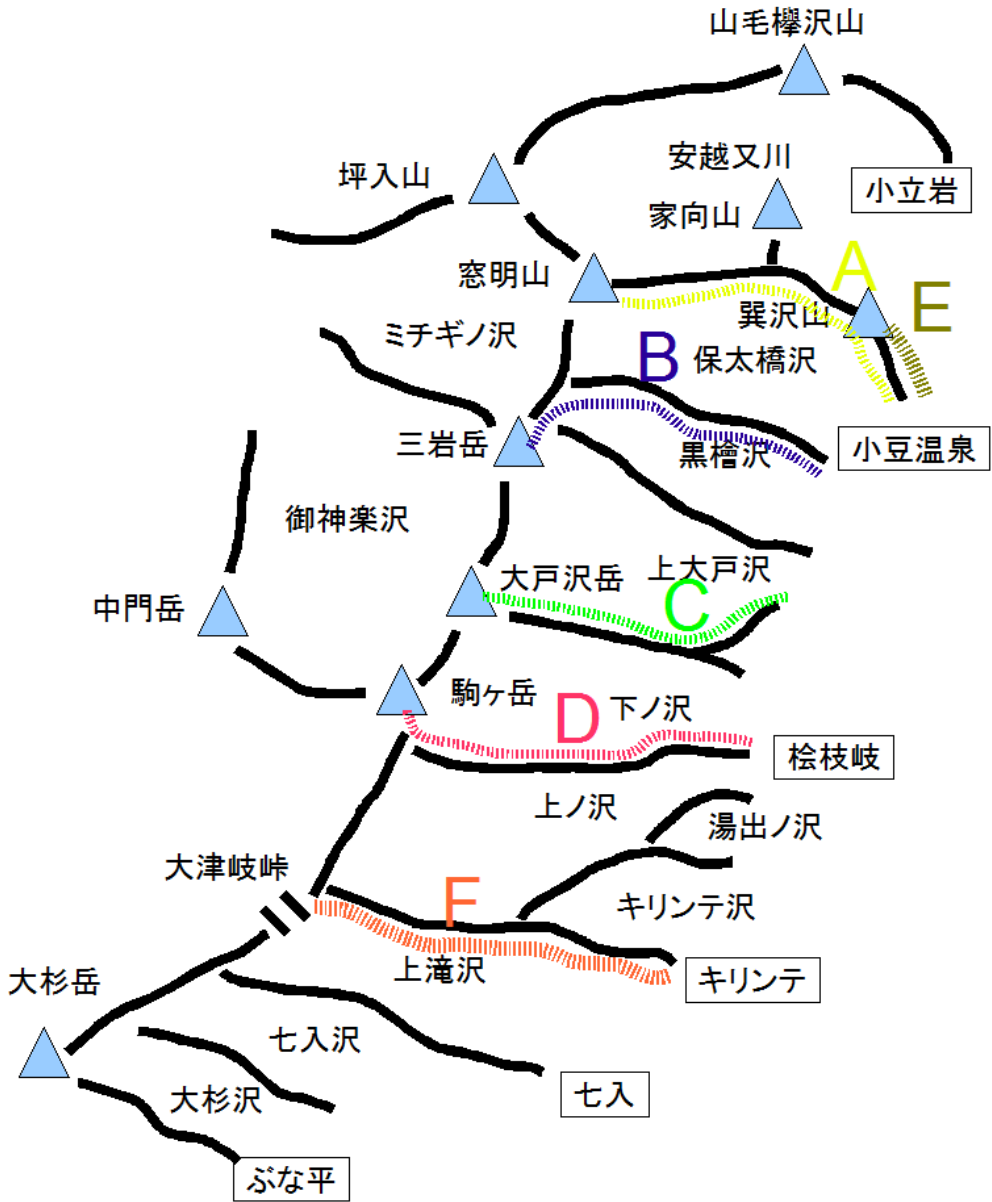
かった方を始めとする、全ての参加者の方々、どうか御容赦願います。雪が少ない分、充実した遡行が待っていることを期待しましょう！（棚橋）

今年で2回目の会山行係でした。前はドタキャンもなく平穩に終わったのですが、今回は雨が予想されたため、出発当日のお昼に全パーティ日帰りに変更し、ルートの再設定や再配車で大慌てでした。その際、各車オーナーや各パーティのリーダーには、同乗者への連絡や、計画書の再作成を快く引き受けてもらって助かりました。ありがとうございました。（中村）

昨年に引き続き、二年連続の春の会山行担当でしたが、昨年は異動の当事者で歓送迎会と重なって不参加、今年も出勤となって不参加で下山連絡先担当と、担当ながら何とも不甲斐無い状態で申し訳ない限りです。それでも、会山行とは楽しみなもので、今回の当初ルート案も私のたたき台を概ね取り入れて頂き、メンバーを割り振っていく過程で、計画を順調に消化したメンバーの笑顔が見えてくるようでした。来年こそは、会山行をプランニングから成功に導き、担当の達成感？を現場で味わいたいものです。（石井）



小豆温泉にて集合



遙か彼方の窓明山

## Aパーティー 桜枝岐 窓明山 山スキー

斎藤（健）

【日時】2009年3月15日（日）

【メンバー】浅井L、小暮、大田原、斎藤（健）

小暮さんは、久しぶりの山スキー。歩き始めてすぐにフリーストックのシールが剥がれてしまう。そこは、さすがの小暮さん、普通のスキーでは絶対無理な登りのショートターンを決めて技術でカバーしながら登って行く。

なんだかんだで、ようやく1個目のピーク（900m）に到達。「う〜ん。巽沢山までもこの5倍もあるよ。しかも、一度、降って登り返さないといけないし。窓明山なんて20倍も！この現実、考えないことにしよう…。」

標高1050mぐらいまでは細い稜線、雪は限りなく少ない。藪は茫々。ただ、だんだんと雪も増えてきて、斜面もなだらかに。折角のスキー、そうこなくっちゃ。巽沢山の頂上で一服。

ここで、他のパーティーとの無線交信時間。なんと、他のパーティーは、この時点で、我々が本日目指している窓明山より高いところに到達したなんて話が飛び込んでくる。衝撃！

ここからは、登山道沿いの稜線を進む。巽沢山から一旦滑り降り、登り返す。どこまで行けるかわからないけれど、まずは、家向山ー窓明山の稜線を目指す。稜線は雪庇が張り出して右側から回り込んで乗り上げる。

乗り上がってみると、遙か向こうに窓明山らしき物体が見える。しかも、一旦、100m降っての登り返しもある。Aパーティーの選択枝は、100mの登り返しなんて気にしない。とにかく前へ前へ。

雪庇に注意しながら北よりにトレースを刻んでいく。斜面は段々クラストしてくる。

私などは、標高1700mあたりでついに限界に達してスキーをリュックに括り付け、アイゼンを履いての登りに切り替え。

標高1750mの広々した斜面まで乗り上げた時点で、タイムリミットの12:30。窓明山は、手を伸ばせば届きそうな距離にあり、ピークを踏みたい気持ちは多いにあるのだが、今日のところはここまで。残念な気持ちで一杯だ。

雪庇を超えて巽沢山に向かうルートを探したり、最後の斜面はスキーを外したりと、降りもスピードが上がらず、結局、駐車場についたのが15:50。集合時間は16:00なので、もう、ほんと、ギリギリ山行。桜枝岐、次回は、ゆったり山行で行ってみたいです。

【行程】車(7:25)〜巽沢山(9:35)〜窓明山手前(12:35)〜巽沢山(15:00)〜車(15:50)



油性（ゆせい）のメンバーのおかげです

## B パーティ 南会津 小豆温泉－三ツ岩岳往復

田村

【日時】 2009年3月15日（日）

【メンバー】 L田村、田邊、佐貫

土曜の悪天ゆえ日帰りになってしまい、当初は正直言って残念だったが、現地に着くと思いのほかの降雪と強風。やはりこれで正解だったに違いない。改めて担当の努力に感謝。

スノーシェッドを北に抜けてから尾根に取り付く。昨日の新雪のおかげでまあ普通に登れるが、その下には固い古雪が残っている。数日前なら悲惨だったに違いない。一汗かく登りで電波塔のあるポコへ。そこから細くダラッとした細い尾根に行く。後続のパーティーもいたが、そのまま先に行かせてもらう。風は次第に穏やかに、視界もだんだん利いてくる。太いブナの林が、いかにもこの山域らしい。



即席の縮小計画なので、正直私はピークにこだわらなくてもいいと思っていた。陽が出てくれば、眺めのいいところで昼寝でもして下ることを考えていた。…しかし、みんなガシガシ登って行ってしまふ。どうやら今日は私以外みんな「登るモード」のようだ。では、と皆に合わせて私も登る。最後は

視界も少し悪くなったが、ほぼ手頃な時間に山頂に着けた。全員来たことがあるので、記念写真もなく下山にかかる。田邊さんのテレマークがうまいのはもちろん、フリートレックの佐貫さんが上手なのにビックリ！これなら正月山行はスキーにしませんか…？

上部は堅いところも多く慎重に。中間ではなかなかいい雪があり、一同喜びの声をあげる。次第に雪は重くなり樹林が濃くなったが、何とか降りてきた。いつもながら下りは早い。思ったより雪も良く、短いながらも充実の山であった。

【行程】 3/15小豆温泉(7:30)～電波塔(9:00)～三ツ岩岳(12:45)～小豆温泉(14:40)

【地図】 内川、桧枝岐



ごちそうさまでした

## Cパーティ 南会津 葎ヶ平スノーシェッド～大戸沢岳

野村

【日時】2009年3月15日(日)

【メンバー】中村(L)、田辺、野村

今回は全員テレマークで、二人の華麗なテレマーク滑りを見る楽しみが半分、迷惑をかけずに着いていけるかの不安が半分。

下大戸沢右岸側から、大戸沢岳からほぼ真東に伸びる尾根をめざす。利香さんは今シーズンだけでこの尾根が3回目とのことでルートもよくわかっており、ルンゼから尾根に乗る。昨晚の新雪が20-30センチぐらいある下はわりと締まった雪だが、技術と体力の問題でこのルンゼ登りから既に2人に遅れてしまった。尾根に乗ってしばらくのところ、1386よりも手前あたりでかなりブツい板を履いた地元の単独スキーヤーに抜かれ、結局最後まで追いつけず。以降はほとんどこの人のトレースをいただいた。



なかなか前二人についていけず、上部では風のためすぐにトレースが見えなくなる場所などをちょこちょこ待ってもらいながらも、4時間ほどで大戸沢岳に到着。山頂直下こそ硬い斜面だったが、すぐにパウダーが出て

きた。結構深さもあり、直線的な滑りにせざるを得ないが、標高差で300メートルほどはよい雪質を楽しめた。くだりは、1386の尾根をそのまま滑り降り、下大戸沢にぶつかる手前をトラバースした。

会山行は計画を縮小したものの、天候に恵まれ、また部分的ではあったがパウダーも堪能できた。会山行担当の方々、ありがとうございました。



### 【行程】

スノーシェッド (07:30) ～大戸沢岳 (11:40-12:00) ～1386 (13:10-13:20) ～スノーシェッド (14:20)

【地形図】会津駒ヶ岳、桧枝岐、高幽山、内川



3月会山行 会津駒のカツ井

## Dパーティ 南会津 檜枝岐・滝沢橋～駒ヶ岳 往復

佐藤

【日時】 2009年3月15日(日)

【メンバー】鈴木、棚橋、栗原、佐藤(L)

会山行当初の計画は「檜枝岐・滝沢橋～駒ヶ岳～中門岳～1987～御神楽沢 1596 泊～大戸沢岳～大戸沢北東尾根～1553～下大戸沢」という周遊コースだった。

ところが悪天で、会山行は日帰りに縮小。個別に山頂を目指すテーマとなり、13日金曜の夜半に再提示したD班の計画は、檜枝岐より会津駒ヶ岳往復とした。

さて出発直前の土曜の夕方、予報は「檜枝岐は、土曜昼過ぎに雨から雪に変わり、日曜午前3時まで降り続け、その後は曇りで、午後から晴れ。スキーパーティには望ましい予報」と、期待のもてるものとなったので、会津駒ヶ岳山頂に立ったとき、下まで視界が開けているなら、大戸沢岳～大戸沢南東尾根～滝沢橋へ下る含みを残した。

ちなみにこの大戸沢岳からのルート、トマの年報4に記録が載っていて、「3月の会津スキーはとっても気持ちがいい。この季節、いつも新館さんと一緒にこの山域を訪れたいものである」と、裕ちゃんは結んでいる。

会津駒ヶ岳往復のメジャールートを解説するのは気が引けるが、ガイドでは滝沢橋から入って右の尾根の急登を上がるとしているのに対し、左に入って1370mの共同テレビアンテナへ、左方向からアプローチするというのが「最近のトレンド」らしい。これにしたがって登る。

ところで大戸沢岳からいずれかに下るとしても下部は藪、という記述があるのに、この檜枝岐から会津駒ヶ岳往復ルートは、林間がすっきりしている。

これは檜枝岐の「シャクシぶち(ブナを伐採して杓子や飯べらを作る)」で周辺のブナを伐採したりして山に手が入ったためだろうか。払い下げられたブナを加工する小屋を立て、家から離れてシャクシやヘラをつくっては現金収入の足しにした、そんな檜枝岐の暮らし向きは「山人の賦(やもうどのうた)Ⅲ 檜枝岐・山に生きる 平野福朔 平野勘三郎 白日社」に詳しい。山の生活の実際に関心のある方には、ぜひ一読を勧めたい。

さて、明るい林間の登りは続く。「ルートガイドでは4時間ですよ」と棚さん笑っているが、一緒にお散歩はワンコだけ。鈴木さんと私は、あとからヒーコラ。遠くに青空はのぞいているものの、山頂方面はまだガスって結構風もあり、吹きさらしはカリカリ。残念ながら迷いやすいとされる大戸沢岳方面には行けそうもない。



それでも日曜、さすがメジャールート。山頂まで行かずに滑りを狙うパーティもいれば、直下ではドンドン抜かされた。

さっそく滑走にはいれば、稜線から下りた辺りからはイイ雪。ちょっと滑り過ぎたかと立ち止まれば、ルート修正には柵さん GPS の活躍とあって、こりゃ GPS は山スキー派にとっては「4 種目の神器」にする日も近いのかと思わせる。

メジャーなトレースを追わないようにと、尾根状のバージンスノーを辿って下る。あっという間に滝沢橋、集合場所の小豆温泉には 2 番目に着いた。

窓明の湯でほかのパーティを待っていたところ、食堂のメニューに「ソース煮カツ丼」を発見、躊躇なく注文した。

「ソースカツ丼」は、なぜか山の出入り口に存在する。秩父の草鞋カツ丼を待たずして、寄居駅前の今井屋はタマネギも玉子も入れず。中央線でカツ丼といえば、伊那まで行かずとも、大月あたりで早や「ソース」。群馬では、カツ丼発祥の地といわれる桐生は当然、高崎でもそうす。福島だって、南部の岳温泉では名物だ。

なぜ山の近くに「ソースカツ丼」は多いのか。福島育ちの岳父は、天ぷらをソースで食べていたっけ。粉ものの関西文化圏は別として、東日本山間部ではソースは非日常的なものでご馳走だったから「ソースカツ丼」が特別なものになったのではないか。ところがなんと、卵とソースでとじた「ソース煮カツ丼」が唯一会津に存在する。ご存知、司馬遼太郎の「街道をゆく」の「白河・会津のみち」でもわかるように、会津は特別な文化都市でもあったのである。その会津が生んだ「ソース煮カツ丼」、これが窓明の湯にあるとすれば、食わずばなるまい。

食っていたら、会津駒の山スキーを思い出していた。1988 年 2 月 27 日と翌日のことだから、トマ結成の前である。メンバーは手嶋さん、古野さん、千代川さん、そして年報 4 に登場する新館さんと、会員以外の K さんと私の 6 人だった。

下山すれば食いたいものはカツ丼か、じゃあ山でやってやろうと新館さん。当時は生米を炊く習慣がない厳冬期に炊飯し、お手製のカツを生卵でとじた。このとき会津駒は一晩吹雪いて視界はなく、翌日は早々にガスの中を降りたっけ。煤孫君よろしく、ワインをビンごと持っていった私を、叱ってくれた「岩屋のヒデさん」はもういない。会津駒のカツ丼は、そんな遠い感傷を誘っていた。

**【行程】**3/15 檜枝岐・滝沢橋(7:30)～1370m の共同テレビアンテナ(9:05)～会津駒ヶ岳(12:05)～共同テレビアンテナ(13:20)～滝沢橋(13:40)

**【地図】**檜枝岐・会津駒ヶ岳



Eパーティー

南会津 巽沢山

岩田

【日時】2009年3月15日

【メンバー】L岩田、藤岡、山口、斉藤（良）

会山行唯一の歩きパーティーである我々の当初の目的は山毛櫨山だった。特に難しそうなどころもなく手頃な長さで面白そうだな、と思っていた。しかし予定していた小立岩周辺には車を停められる場所が全くない。周辺を行ったり来たりして探してみるがなかなか見つからず、しかし時間は過ぎていく。そこで日帰りで時間もあまりないのでここは諦め他のルートを探すことにした。地図を眺めると窓明山の途中に巽沢山というのがある。短くてちょっと物足りないかもしれないが悩んでいるヒマはない。

窓明山を目指す浅井パーティーを追いかけるような形なのでトレースはすでにしっかり付いている。曇り空も晴れてきて青空が広がってきた。前日降った雪のためか思ったより雪は深くワカンを持ってこなかったら大変だっただろう。急な登り一時間弱ですぐになだらかとなり周囲にはブナの巨木が点在している。なかなかいい光景だ。小さな山なので山頂とはっきりわかるものは無い。ここが山頂だろう、というところで引返し



ブナ林で大休止。まだ11時なので急いで下山してもしょうがない。無線交信を聞いてみると他パーティーは忠実に目的ルートを目指しているようだ。「まー、こういうこともあるさ」と自分を慰めながら下山を開始する。下山には一時間もかからなかった。ちょっと（かなり？）物足りなかったが春山気分は楽しめたからいいか・・・。

当然のことながら温泉には我々のパーティーが一番乗りだった。のんびりソバを食べながら他パーティーの到着を待った。

【行程】3/15 小豆温泉（8:20）～巽沢山（11:00）～大休止～小豆温泉（12:30）

【地図】内川



坂村さんのお試しも兼ねた山行

---

## Fパーティ 南会津 大津岐峠山スキー (中退)

---

手嶋

【日時】 2009年3月15日(日)

【メンバー】 L手嶋、山川、渡辺、尾木原、飯田、池田、坂村

つい3日前の浅草岳の時も前夜は吹雪、そしてこの土曜日にも桜枝岐到着時は吹雪。冬は暖かかったくせに、ここに来てまたヘンテコな気候になったものだ。

上ノ原の除雪終了地点でシールをつけ車道を進む。くるぶしからすねくらいまでのラッセル。大体1時間くらいでキリンテの登山道入り口に到着。このあたり湿地で水路が出ているので、キリンテ沢の右岸の急斜面にルートを取った。

地図で見るよりは登り易い。ただし今日は山から遠ざかっていてリハビリ的な人もいて、ゆっくりのペースだ。自分で「登りは遅い」と言っていたゲストの坂村さんも、ちっとも遅く感じない。

300mほどの急斜面が終わると、斜度は緩くなり滑りにも手頃なブナ林となる。ここは帰りが楽しみだ。本来今日の後半は1764mのピークからキリンテ沢を滑る予定だったが、ヤブがひどそうなので、すぐにそれは諦めた。

やがて上滝沢とキリンテ沢をわける大きな尾根を行くようになる。やや細いところも一部あったが、概ね滑りには良さそう。ただし車道を歩いている時は素晴らしい粉雪だったのが、天気が悪くなってきてすぐに重い雪に変わってしまった。

オギちゃんが完全にバテている。まあ仕方ない。私と同じくらいの年齢で半年に1回くらいの山行、そしてお見受けしたところ体重も増えている様子。私も昨年今の頃はそうだったので、気持ちは良くわかります。でもGWの鳥海に向けてがんばってね。

結局頂上はおろか、1764mピークにも到達せずに時間切れ。1610m地点から戻ることにした。池田さんにラストをまかせて滑り始める。始めはまあまあの雪質。自分は楽しく滑る。坂村さんの滑りは安定している。やがて雪はどんどん重くなってきて、登り始めの急登の部分は大変。大体斜滑降キックターンで降りるのだが、雪崩が怖い。実際に小さいのがひとつ起こってしまった。

何とか苦勞してこの斜面を滑り降り、車道に出て一安心。あとはこれを車まで戻った。坂村さんはこの山行をもって入会することになりました。よろしくお願いします。

【行程】 3/15 上ノ原除雪終了点(7:30)～キリンテ(8:35-8:55)～1610m地点(12:05)～キリンテ(14:00)～上ノ原(14:50)

【地図】 会津駒ヶ岳